

年瀬はだんくおし迫つて来るそれに伴つて人の心も慌しくなつて來た、この恒例のやうに深刻な不景氣歳末季節に多い災危は毎年拂とか、押賣とか色々の犯行が多くなつてくるが殊に最近のやうに深刻な不景氣には各家庭において年末を警戒し、そして被害のないやうにお互に充分なる用心がほしいものである

安全な事は外を明るく内を暗くする事である、外が明るければどうしても

昨報石城郡小名濱町の小作人等が小作争議を惹起せん一應は見廻る事が肝要である、更にその豫防法として遂に戸締りも忘れ易いものであるから、寝る前に必ず戸締みである、これは大底戸締か不充分な所に多いもので、とかく暮の忙しさに恒例のやうに空巣狙ひとかニソ泥とか、詐欺とか、搔きなど盜まれてしまふ事がよくあり勝ちである、だから若しどうしても留守にしなければならぬやうな場合に夫婦揃つて外出したりしてみると、折角の晴着や装身具など盗まれてしまふ事があるれば、次ぎに忘れてはならぬ、次ぎに多のは訪問詐欺である、たゞへば主人の友達ですとか或ひは同じ会社の者ですとか何とか色々こじつけて金の無心に來たり或ひは、あはれさを訴へて衣類や米を強要したり或ひ

年瀬の犯罪に

各家庭の注意を要す

平署 齋藤警部補談

元小學校教員が不穏ビラを撒く

今度は錦方面に直ちに植田署に検舉

内郷民謡會

新舊署長歓送 平警察署管内消防組頭會は十八日正午より同署會議室に開く

石城郡内郷村民謡會にては中づある

和館に於て全國著名民謡大

(三)が昨日錦村方面に不穩

催されるが時恰も署長の更迭があつたのでこの機會に

走昨日平署に捕れたが背後

に男の悪足が着いて居るらしく各所でお目見得詐欺を行つたらしくと

山村醫院

双葉郡浪江町電話一一四番

外科、内臓外科
耳鼻咽喉科

旅館 西山
電話二〇番

御料理 生そば
主 杉 荒吉
電話一七四番

割烹 大蒲燒
相馬郡中村町大手先
電話六三三番

中村新町(元新龜跡)
主 杉 荒吉
電話二三八番

相馬中村町大町
電話六三三番

御宴會場
中村新町大手先
電話六三三番

後七、二五 文藝講座「日本芝居はどうなるか」
東北帝大法文學部教授小宮豊隆
後八、〇〇 但謡一定義
二 錦倉節 三湯瀬村
四イ おいとこ節 ロ麻
角甚句 五よされ節 六
神樂(宮雀の舞) 小川健

明日のラヂオ

十九日放送台仙

報豫天

北西の風天氣よ

は不要な物を無理に押賣

して來るのであるが、こんな

場合の用心として若し主人

からお互に内輸同志の所謂

内部にどんな施設がして

あるか分らぬので、泥棒除けには最もよい方法である

次ぎに空巣狙ひであるか

官に等しく、又内が暗けれ

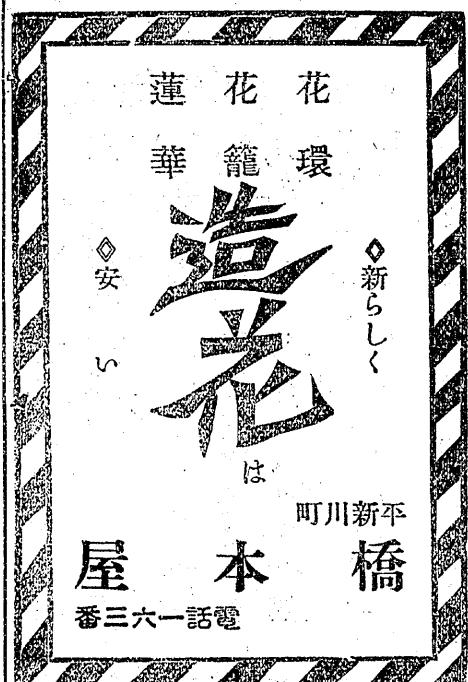
ば内部にどんな施設がして

あるか分らぬので、泥棒除

けには最もよい方法である

次ぎに空巣狙ひであるか

官に等しく、又内が暗けれ



電話開設
六二五番
右開設致しましたから何卒御利用下さい

辯護士 増田梅藏

理想的耐水耐熱接着剤
◎水か微温湯で溶せばすぐ
使へる簡単な膠着剤
一名コナニカワ
◎四季を通じ一度ついたら
膠着力は絶対的です
◎理想的完全耐水耐熱の可
能性を発さし防腐の効
果著し

小野屋薬店

専門 内科一般
宅診 往診 内科は何でも診療致します
平町南町六五〔元大和田耳鼻院跡〕
医師 川井重子
女医 川井安子
電話 一四四番

鐵道省御用

金光堂時計店

平 五 丁 目

看護婦募集

磐城共濟會

平町 電話六四二番

一、衛生試験所
二、救氣相談所
三、治療所
共濟病院内
昭和五年九月

院長 医學博士 難波睦
本院主 管 賀澤忠治
物理學的 診療科

X 光線科
耳鼻咽喉科
産婦人科
内科 小兒科
外科
皮膚泌尿科
整形外科
内臓外科
各科専門
医務室
博士に限り (一般 金參圓)
会員 (一般 金貳圓)
也

て總は命用御の物刷印
常磐日毎鑑印刷印番○三六話電

磐城共濟病院案内
入院料 一日 (本會員) 金貳圓 也
同地方法院も之に應じ低減致候間此段申添候
本病院は時局に鑑み八月一日より入院料並
に往診料左の通低減致候間御参考迄申上候
往診料 一日 (本會員) 金貳圓 也
同地方法院も之に應じ低減致候間此段申添候
院長及他の (一般 金參圓)
博士に限り (本會員) 金貳圓 也

◆高橋の死體 (其一)
仕事場の上にはサイころが二ヶ
目盛りを抜いたのがあり、「方火
鉢の上に小さな鍋の鍋を鉢をとか
し掛けて居るのだった。
「申請がありません、難分何う
か是れはお目に見えます」
と答える。
「いかさま、ザイなどは揃えたとこ
ろで、格別無い事では無い。百も
叩かれよば夫れで御免には成るが
お上の手に合つては何んなボロ
には詫罪が幾らである。
「目こぼし……福手めへ能く幾
度もく其んな事が言はれるな、
だらう、誰に頼まれてこしらへた
が……」

「はい、これが……」
「次第に依つちやア今度だけ見
廻しにしねへ歸でもねへが、其代見
り貴様も少しは上の御用を勤めろ
はれは手めへが揃えたものか然。
でねへが、見て正直な事を云へ、
胸に落ちりやア今度の事は目こぼ
しにしてやる」と安政は腰中から
金太の持つて來たいかさまザイを
出し見せた。

「へエッ、是れは……」
「何うだ皆様がこしらへたもの
た事のある奴が見れば直に分る筈
がこしらへたのだ」

「へエ、
「何うも難分に出来つちやアね
はねへ、實は別に悪い氣で腹を吐
いたんぢやアねへですが、是れ
はタック四日前の二十四日の日に
読ひ先へそつたもので、餘り早い
のです、然り云ふ譯だから是非お
目こぼしを……」
「ふ奴だ、御用の間が缺けさへし
白金猿町へ向つた。

「へエ、
「何うも好い其七の助と云ふ奴
を調べなくちやア、手めへ一緒に
行け家の案内者だ」
「御勘定は下さいますんか」
「甘く七之助が調べられれば其
時勘定して貰る」
此處で安政は福五郎を引連れ、
白金猿町へ向つた。

「へエ、
「何うも好い其七の助と云ふ奴
を調べなくちやア、手めへ一緒に
行け家の案内者だ」
「御勘定は下さいますんか」
「甘く七之助が調べられれば其
時勘定して貰る」
此處で安政は福五郎を引連れ、
白金猿町へ向つた。

「へエ、
「何うも好い其七の助と云ふ奴
を調べなくちやア、手めへと一緒に
行け家の案内者だ」
「御勘定は下さいますんか」
「甘く七之助が調べられれば其
時勘定して貰る」
此處で安政は福五郎を引連れ、
白金猿町へ向つた。